

調べてまとめる力は全国レベル 図書館を使った調べる学習コンクール



自ら決めたテーマを調べてまとめるコンクールで市内の小中学生6人が入賞され、2月27日に市図書館「煥章館」で表彰伝達式が行われました。詳しく調べられた作品は、いずれもいきいきとまとめられていると高く評価されました。
(優良賞に中村莉子・岩田亮太・山田涼雅・洞口悠生、佳作に谷倉一輝・金井柁也が入賞 敬称略)

町おこしの思いを語り合う 全国地域再生サミットが朝日町で



全国の町おこしに関わる約200人が2月25、26日に朝日町に集まり、討論会や交流会を通して地域活性化の熱い思いを語り合いました。
「地域の元気は自らの手で」をテーマに、初日は秋神温泉の氷点下の森で交流会があり、花火やコンサートなどで親交を深めました。二日目は燦燦朝日館で討論会があり、熱心に意見が交わされました。

そばと餅で新しい郷土料理を 「荘川べっぴん桜」グループが発案



かつて荘川町内で栽培が盛んだった雑穀の一種「チョウセンビエ」を使った新メニューを荘川べっぴん桜グループが発案し、29日に荘川福祉センターで試食会がありました。
発案されたのは、白玉粉を混ぜて生地にし、餡子を包んだアケビ餅と、そば粉の粉末を加えたそばの2種類で、ほかにも復刻版の報恩講料理も味わった町内関係者からは好評を博していました。

シイタケ品評会で頂点に輝く 八度目の挑戦で念願かなう



菌床シイタケの品質を競う全国サンマッシュ品評会で、アルプス農場(上宝町)の大西洋介さんが最高賞のゴールデンサンマッシュ賞を受賞されました。
同農場のシイタケは「肉厚で水分が少なく、つやもある」ことが高く評価され、大西さんは「今後は、すべてのシイタケを品質の良いものにしていきたい」と決意を新たにしていました。

飛騨高山雛まつり スタンプラリーも開催中!

春の訪れが遅い飛騨地方では、4月3日に雛まつりを祝います。その間、土雛や古今雛など古くは江戸時代から代々伝わる雛人形の数々が、市内90カ所で展示されています。飛騨の里では、みなさんから寄贈いただいた約600体もの土雛を展示しています。雛まつりガイド(有料)もありますので、これを機に飛騨高山の風習を再発見してみませんか。詳しくはお問合せください。開催期間 4月3日火まで



問合せ先 観光課 ☎35-3145 飛騨の里 ☎34-4711